



## キラウエア火山の活動がさらに活発化

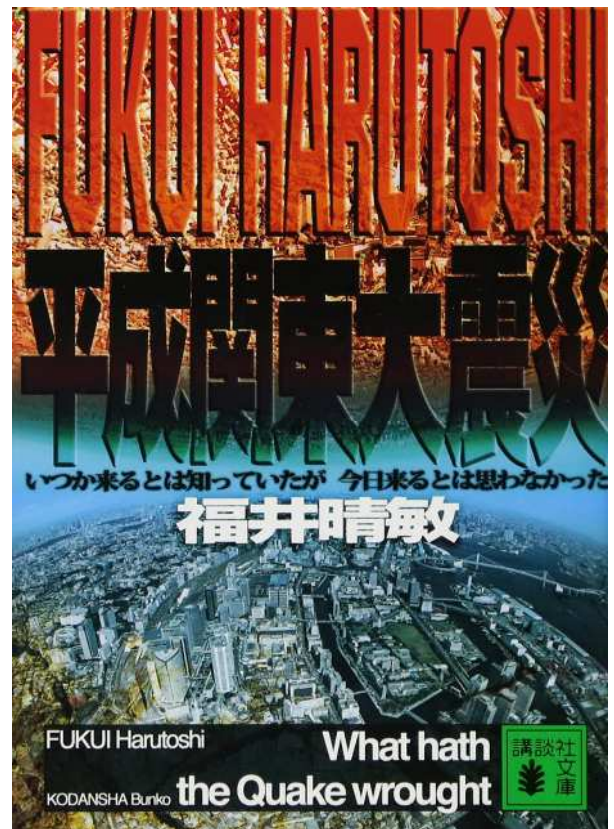
ハワイ島のキラウエア火山のニュースがメディアでも取り上げられています。ここ1週間ほど、さらに活動が活発化し、爆発的な噴火も発生するのではないかと指摘があります。もともとハワイの火山は玄武岩質マグマというもので、粘性が低く、それ自体では爆発的な噴火は引き起こしません。現在危惧されているのは、マグマが地下の大きな水脈と接触した時に起こる水蒸気爆発です。水は熱せられて水蒸気になると、その体積はおおよそ2000倍にもなります(仮定する温度によって違い、通常1700倍から2500倍ぐらいの数値が使われています)。

キラウエアでは17日には火山灰が上空9000mまで達する噴火があり、航空機の飛行にも支障が出るようになっています(すでに警戒レベルは最高の「レッド」に引き上げられています)。なおこのような規模の噴火は1924年に死者を出す噴火がありましたが、それ以前では1790年に記録に残る最大の爆発があった事が知られています。この時はサージと呼ばれる現象が発生し、約80名の死者を出しています。サージとは火山ガスと火山灰が混じった高温の気体が高速で流れ下るもので、時には時速100kmにもなると言われています。ホノルルのあるオアフ島には風向きによって、空が曇ったような状態になる事がありますが、噴火そのものの影響はありません。

## 本(小説)の紹介

福井晴敏の小説に『平成関東大震災』という小品があります。東日本大震災前に書かれた小品で、首都直下地震が発生したあと、どのように主人公が行動したかが書かれています。副題は「いつか来るとは知っていたが、今日来るとは思わなかった」というもので、まさに今の我々にぴったりの状況ではないかと思えます。単なるマニュアル本やHow to本と違い、主人公の精神的葛藤や、いかに日本人が会社人間か等がある意味面白く描かれています。項目立ても変わっており、たとえば3章は「コンビニで火事場泥棒に遭遇! どうしよう」、4章は「瓦礫の下から老婆の声! どうしよう」といった具合に、徒歩で帰宅中にどのような事態に遭遇したかが、ある意味現実的に記載されています。

皆様にもご一読お勧めします。



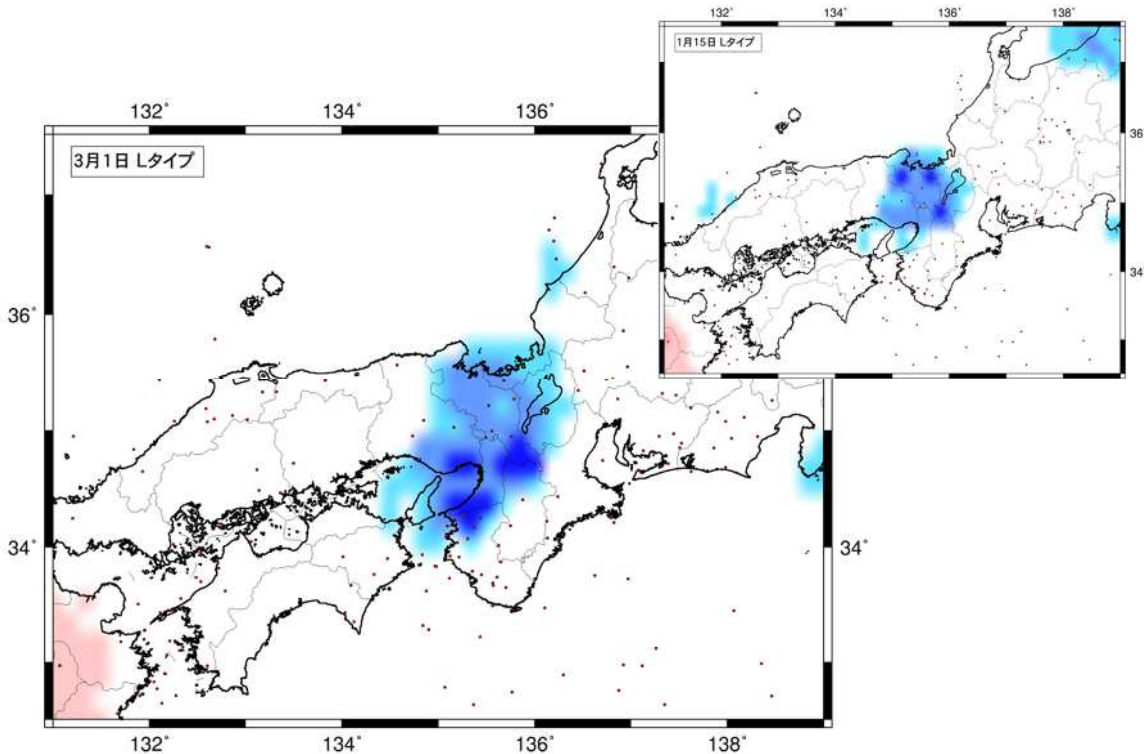
## 中部・近畿・中国・四国地方の地下天気図®

4月2日のニュースレターに引き続き、5月17日時点の地下天気図をお届けします。中部地方以西は東日本大震災の影響が小さく、17年間という長期間の地震データを解析に使う事が可

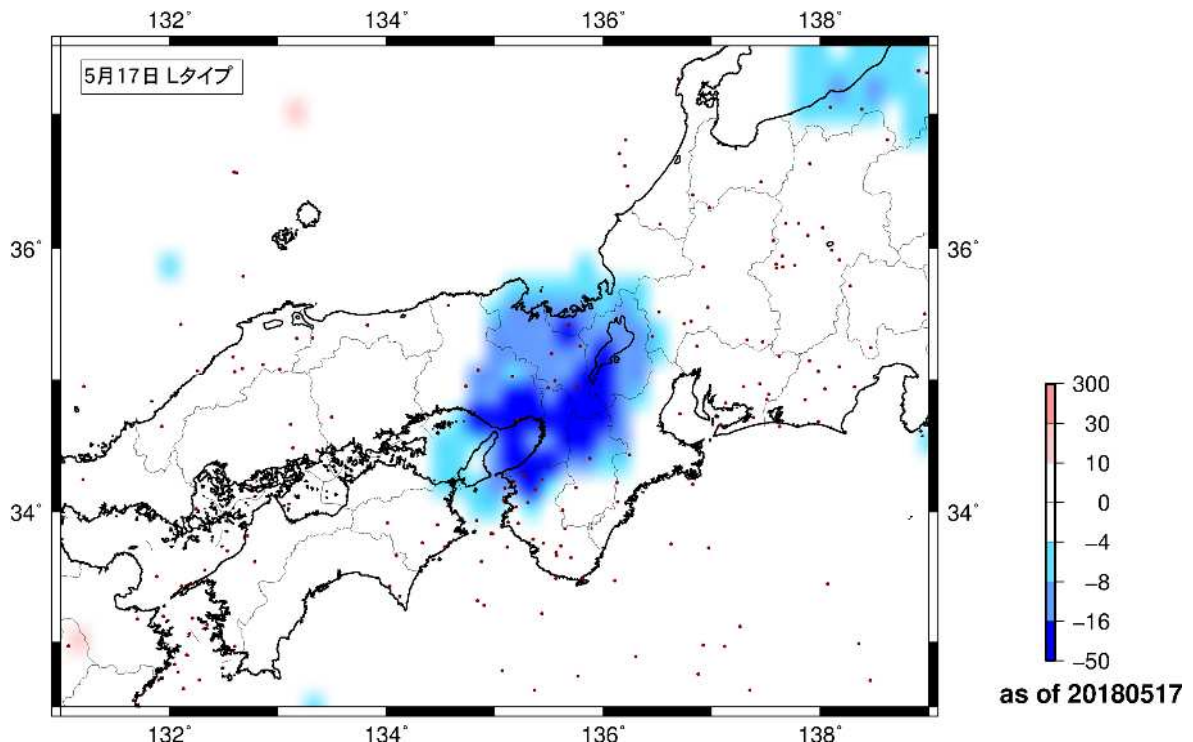


能です。

今回は L タイプのみをお示しします。下の地下天気図は右上が今年1月15日のもの、左下が3月1日のものです。およそ1ヶ月半の間の変化を示しています。



下の地下天気図は最新の 5月17日時点 のものです。さらに静穏化の異常が大阪を中心とした地域で進んでいる事がわかります。ただ異常が継続していますので、発生時期はまだ先と考えております。



台風は発生してから1週間とか2週間の話ですが、地震の場合、半年とか1年単位でゆっくりと地下が変化していきます。これが地震発生時期の予測が難しい理由なのです。